

中学校 特別活動 部会

部会長名 福智町立赤池中学校 校長 春永 功次郎

実践者名 大任町立大任中学校 教諭 桑野 善徳

1 研究主題

自主的・実践的な態度を養う文化祭での取組
～目的を明確にし、目標を意識させる活動～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

今日、働き方の変化や生活様式の多様化等に伴う地域生活における日常的なかかわりやふれあいの機会の減少等により、人間関係の希薄化等に伴う問題が多く指摘されている。そのため、個々の生徒が、自分を取り巻く学級や学校生活の中から、問題や課題に気づき、自己との関わりの中でその改善・解消にいかに取り組む必要がある。そこで、生徒たちが望ましい集団活動や体験的な活動を通してよりよい生活や人とのつながりを築こうとする主体的・実践的な態度を養っていく必要性があると考えられる。

(2) 学校教育目標・目指す生徒像から

学校の教育目標 大任中ACT

自立 (Action) する生徒

協働 (Communication) する生徒

創造 (Thinking) する生徒

目指す生徒像

自立：自分の可能性を信じ、向上心をもって目標に向かって行動する生徒

協働：集団への貢献を深く考え、適切に判断し、友と励まし高め合う生徒

創造：目標達成や課題到達のため、柔軟な発想と学んだ知識を活用する生徒

自立は学びに向かう力・人間性等に関する事、協働は思考力・判断力・表現力等に関する事、創造は知識・技能に関する事である。本校の教育目標を達成するためには、様々な課題に対して、生徒達が自らの可能性を信じ、学習して得た知識や経験を活用し、対話の中で合意形成しながら主体的に解決していく力をつけなければならない。そのため特別活動の中で自主的・実践的な態度を養うことは大変意義深いことである。

3 主題の意味

(1) 「自主的・実践的な態度を養う」とは

様々な活動において当事者意識をもち自分から主体的に集団活動や体験的な活動に参加して、他の生徒とともに協働する態度を養うことである。

(2) 「目的を明確にし、目標を意識させる活動」とは

目的を達成するためにはどうしたらよいか考えて目標をたて、自分たちの係の仕事の内容とつなげながら行動させる活動である。

研究紀要の様式

4 研究の目標

学級で文化祭での目的をもとに、学級スローガン決めをすることで文化祭の取組に主体的に参加し、自主的・実践的な態度を養い、集団の一員としての自覚と責任をもち、集団のまとまりや生活を見直していくことを目指す。

5 研究仮説

生徒が目的を意識して話し合い、自分たちの学級スローガンを立てることで集団の一員としての自覚と責任をもち、集団のまとまりや生活を見直していくことができるであろう。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 題材名「集団生活の向上 文化祭の目標や役割分担」

(2) 単元(題材等)の目標及び指導計画

指導計画

	生徒の活動	指導上の留意点	日時
事前の活動	1 アンケート調査を行う。 2 学級会の役割分担を決める。 3 文化祭結団式 (1) 文化祭の生徒会スローガンの意味や内容を知る。 (2) 文化祭での学級目標を実現した姿を考える。 4 計画委員会で議題と今後の活動計画を話し合う。	○生徒会の文化祭スローガンと2年2組の学級目標の関連付けを行い、提案理由を検討する。 ○学級目標を達成した合唱の姿、練習の取り組み方を体育会の反省や昨年度文化祭の反省をもとにイメージできるようにする。 ○どんな文化祭にしたいのか、各時自宅で考えてくるように、代議員が全員に指示する。	帰りの会 5校時 放課後
本時	1 学級会を行う。 (1) 友達と支え合い、高め合う姿をイメージできるスローガンを考える。 (2) 全体で話し合う。 (3) 具体的行動を決定する。 (4) 合意形成する。	○話し合いの柱に沿って話し合いができるように、全体に議題や提案理由を確認する時間を設ける。 ○生徒が自分の意見をまとめやすいように、現在の学級の課題を明確にする。 ○話し合いの内容が目的からそれた場合や滞った場合は、教師が軌道修正を図る助言を行う。	第5校時

研究紀要の様式

事後の活動	<p>1 準備、活動を行う。</p> <p>2 毎日の活動の振り返りを行う。</p> <p>3 文化祭で合唱する。</p>	<p>○話し合ったことが実行できているか、振り返りの場と時間を設定する。</p> <p>○学級目標の到達度、スローガンの実現度などをもとに成長した点や友達の良かった点を相互評価させ、教室背面の掲示物に書き込んでいく。</p> <p>○ブロック集会後に、学級で学級目標の達成度、スローガンの実現度などを振り返り、評価する。</p>	
-------	---	--	--

① 事前

課題設定のためのアンケートの結果，昨年度の文化祭の課題，体育会での中堅学年としての行動などをもとに計画委員に話し合いをさせると「文化祭を通して3年生を支え，1年生の手本となる行動が必要だ。学級目標にある姿をもっと充実させるために，合唱に対して不安を感じている友達を支え合いみんなで高め合っていこう」という考えに至った。

学級会へ向けた準備として，まず帰りのホームルームで議題決定の承認を受けるようにする。計画委員の生徒には，進行の仕方，意見の集約，話し合いを円滑に進めるための方法，目標とする話し合いの方向付けなどを考えさせる。他の生徒には，学級会当日までに自分なりのスローガンの案を持つようにさせる。また，計画委員が自分たちだけで自信をもって進行できるように，話し合いの手順について指導をしたりリハーサルを行ったりする。

② 本時

本時の活動では，自分の意見をもって話し合いに参加し，他者の考えも尊重しながら文化祭の学級スローガンを考えることをねらいとする。そこで ①生徒会のスローガンとつながりがあり，学級目標である「友達と支え合い，高め合う」ことのできるスローガンを決定する。②スローガンを具体化する行動を考える。を柱として合意形成を行う。そのため，複数の意見を比較したり，組み合わせたりして意見を深めていくことを指導する。

③ 事後

事後は決定したスローガンのもとに活動を行い，定期的に活動の振り返りを行う。その後の準備や活動では協力して活動に取り組めるように助言や指導を行っていく。

また，活動後の振り返りの場面で，目標の達成度を出させ，次の行事や学校生活に生かせるようなPDS（Plan-Do-See）サイクルを確立し，学級として成長している姿を教室背面の掲示物に付加していく。

研究紀要の様式

7 指導の実際（本時）

(1) ねらい

自分の意見をもって話し合いに参加し、他者の考えも尊重しながら文化祭の学級スローガンを考えることができる。

活動展開計画

学級会の計画 令和5年10月11日（水）		
<p>【議題】 「彩響な文化祭にするために、学級のスローガンを決めよう」</p> <p>【提案理由】 生徒会の文化祭スローガンは「彩響～～虹色の翼で☆果てしない空へ～」である。このスローガンを受け学年合唱で金賞、ブロック合唱でベストハーモニー賞になることを目指すが、合唱を不安だと感じている仲間がいる。みんなが協力して取り組む合い言葉となる学級スローガンを決め、学級目標である「Power of Smile ～共に支え合い、高め合うクラス～」にし、体育会でお世話になった3年生を文化祭で支え、1年生の模範となるような行動を考えるために本議題を提案する。</p> <p>【話し合いの柱】</p> <p>① 生徒会のスローガンとつながりがあり、学級目標である「友達と支え合い、高め合う」ことのできるスローガンを決定する。</p> <p>② スローガンを具体化する行動を考える。</p> <p>【役割】 司会： 副司会： 板書・タブレット操作： ノート書記：</p>		
主な活動内容	指導上の留意点	評価規準
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 計画委員会の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 話し合いのめあての確認</p> <p>めあて</p>	<p>○話し合いを円滑に行うため、議題や提案理由は、あらかじめ板書しておく。</p> <p>○生徒会のスローガンを意識させるために提案理由は代議員が行うようにする。</p> <p>○計画委員で協力して話し合いを進めることができるように、態度面に関するめあても確認させる。</p>	
<p>文化祭の練習や本番を通して、友達と支え合い、高め合うことのできる学級のスローガンを決めよう。</p>		

研究紀要の様式

<p>5 教師の話</p> <p>6 学級のスローガンを話し合う。</p> <p>(1) 事前に考えてきた個人案をワークシートに記入する。</p> <p>(2) 班でどの案が良いかを決め理由を含め、発表する。</p> <p>(3) 司会が調整役を果たしながら、案を1つに絞っていく。</p> <p>柱① 生徒会のスローガンとつながりがあり、学級目標である「友達と支え合い、高め合う」ことのできるスローガンを決定する。</p> <p>(4) 折り合いをつけ、文化祭のスローガンを全員で合意形成する。</p> <p>柱② スローガンを具体化する行動を考える。</p>	<p>○学級目標とのつながりを意識させるため文化祭に対して不安を感じている仲間がいるというアンケート結果を知らせる。</p> <p>○自分の案がまとまらない生徒にも考えを持たせるために、キーワードだけでもよいことを司会に説明させる。</p> <p>○スローガンの意味や理由と併せて、その実現のための行動も考えさせることで柱2につながるようにする。</p> <p>○合意形成しやすくなるように、事前に考えてきた案を班でまとめ、話し合う案を学級全体で5つに絞る。</p> <p>○話し合いを円滑に行うため、内容が話し合いの柱からそれた場合や滞った場合は教師が軌道修正を図る助言を行う。</p> <p>○複数の案を統合したり、採用されていない案の中で大切と思われる言葉を取り入れたりするなどして、合意形成を図る。</p> <p>○意見がでないときは班で話し合う時間をとるように、司会グループに助言する。</p> <p>○意見が出ない場合は、中堅学年としての行動、体育会のブロック練習などを想起させ、3年生を支える行動、1年生に模範を示す行動の具体を考えさせる。</p>	<p>○ 他の生徒の意見を尊重しながら、考え、判断することができたか。</p> <p>(発言・タブレット) 【思考・判断・表現】</p>
---	---	--

研究紀要の様式

<p>7 決定事項の確認</p>	<p>○ノート書記に決定事項を発表させ、合意形成した実感を持たせる。</p>	
<p>8 教師の話</p>	<p>○自主的・主体的態度を育成するために、司会者に学級会について評価させる。</p> <p>○昨年の合唱練習を思い出させ、決まったスローガンを実行している自分の姿を具体的に考えさせ、振り返らせる。</p> <p>○合唱練習用の楽譜に決まったスローガンを記入するなど、練習前の確認や練習中の意識を高めるための工夫を考え実践するよう促す。</p> <p>○今後、行動に実行させるために話し合いを方向付けた発言や司会、書記の活動を賞賛するとともに、活動に向けて意欲を高める。</p> <p>○司会や書記などの実行委員に、円滑な会議進行や準備などに対するねぎらいの言葉をかける。</p>	
<p>9 閉会の言葉</p>	<p>○本時の振り返りを書かせ、学級会や学級の良さを実感させる。</p>	

8 研究のまとめ

生徒が目的を意識して話し合い、自分たちの学級目標を立てることで、集団の一員としての自覚と責任をもち、行動できるようになってきた。この活動を通して、修学旅行の取組や日頃の生活の中で集団のまとまりや生活を見直していくことができていた。

研究紀要の様式

9 成果と今後の課題

(1) 成果

- 合意形成を図りやすいように、個々の案を全体で出すのではなく、班でまとめ、全体で5つの案に絞ったことがとても有効であった。
- スローガンづくりの中で、副スローガンを決めることでより多くの意見を反映できるようになった。
- 昨年の文化祭や一学期の体育会の反省を生かすようにワークシートを工夫することができた。

(2) 課題

- 今回の学習を通して主体的に活動ができた生徒が増えてきたが、まだ周りの生徒に頼っている生徒が少数いること。
- 今後は特別活動と総合的な学習との関連性を図りながら、今回学んだ内容の充実を図ることが必要になってくる。

- ◎ 参考文献 ○ 「中学校学習指導要領 特別活動編」 (文部科学省)